

平成27年度 事務事業マネジメントシート

事業名	環境マネジメント事業			会計	款	項目	大	小
政策	02	2節	生活の豊かさを実感できる流山（生活環境の整備）	主管課	環境政策・放射能対策課			
施策	2-1	豊かで美しい生活環境の創造		主管課長	染谷 忠美			

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市職員	意図	市役所における環境負荷を低減させる。環境への取組みと意識の向上及び経営面での効率化を図る。
事業内容	本市の環境行政の基本的指針である流山市環境基本計画に掲げる環境像「緑・水・風土の豊かさを子どもたちに残そう 森のまち・流山」の実現を目指し、流山市環境マネジメントマニュアル及びエコアクション21に則した環境マネジメントシステムを構築し、市役所の環境負荷の低減と地域の環境保全に向けた取組を推進する。			
事業開始から現在までの状況変化	平成20年度に本庁舎及びクリーンセンターを対象範囲として第三者審査機関の審査を経てエコアクション21の認証を取得し平成24年度には全施設に認証範囲を拡大した。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
指標	① 教育研修実習回数	3	3	3	回	→→	
	② 内部環境監査実施回数	1	1	1	回	→→	
	③ 本庁舎電気使用量	577,500	558,297	569,820	KWh	↓↓↓	
	④						
指標で表すことができない定性的な成果	「環境カード」の携帯と、平成25年度から審査人推奨により始めた各職員の環境負荷を考察するシートの運用開始により全職員で環境負荷低減に取り組んだ。						
事務事業のコスト	平成25年度	平成26年度	平成27年度	目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） 本庁舎及びクリーンセンターに限定されていたエコアクション21の認証範囲を全ての事務事業に拡大することにより、地球温暖化対策実行計画や環境白書との整合が図られ、環境負荷に関わる数値の管理等、それぞれ別で把握していたものの煩雑さが解消され事務の効率化を図ることができた。その一方で、施設等に対する説明や照会などの増加により事務局及び各部局の事務量が増加した。			
事務事業の総コスト(a=b+c)	4,811,040	6,008,552	4,820,764				
事業費(b)(円)	1,317,540	1,862,552	302,764				
うち一般財源	1,317,540	1,862,552	302,764				
職員給与費(c)(円)	3,493,500	4,146,000	4,518,000				
人役・職員(人)	0.50	0.60	0.60				
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	III 要改善（事業は継続するが、更なる改善が必要）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H27)の改善計画	システムの「自己認証」も視野に入れたシステムの改善と職員の取り組みへの啓発、事務の簡素化などを並行して行う必要がある。	③取組の課題	マネジメントシステムはレベルアップしているが、事務の複雑化も起こっており、簡素化することで事務局及び各部局の負担を低減する必要がある。
②今年度(H27)に実施した取組	システムの「自己認証」については検討を行ったが、平成27年度については通常の審査によりエコアクションの認証を継続した。	④今後の改善計画	システムの「自己認証」も視野に入れたシステムの改善と職員の取り組みへの啓発、事務の簡素化などを並行して行う必要がある。